

# たけとんぼ



戸田市立新曽小学校・戸田市立戸田東小学校・戸田市立美女木小学校  
「ことばの教室」11月号

街角の木々が鮮やかに色づき始める季節となりました。日一日と秋が深まり、朝夕の冷え込む日も増しています。体調を崩さないように元気に過ごしたいですね。

## 退級した児童の保護者様のインタビュー

発音を改善して退級した児童の保護者様へインタビューをしました。

### 質問1 1日の練習時間は、どのくらいでしたか？

3～5分くらいです。毎日練習するようにしていましたが、忘れたり気持ちに乗らない様子の日は、あえてお休みしたりしていました。

### 質問2 練習をするときに工夫していたことがありましたら、教えてください。

学校の宿題とセットにしてやっていました。集中力があるタイプではないので、練習をすぐに終わらせようとしてしまうことも。なので、お風呂や車の中など会話のなかで「こう试试看て？」と練習することもありました。

### 質問3 ことばの教室へ通級して、大変だったことは何ですか？

学校から帰宅してすぐの通級の時は、集中力がなくなってしまうたり、眠くなってしまったりと、本人のやる気がない日は大変でした。

### 質問4 ことばの教室へ通級して、よかったことは何ですか？

発音の改善ができたことと、子ども自身が自分の言葉や会話に自信を持てるようになったことです。

### 質問5 これから入級される方にアドバイス等がありましたら、お願いします。

毎週子どもと一緒に通うということは、なかなか大変でしたが、退級を迎え、一緒に頑張ってきたなと思います。2人で受ける授業は、今改めて思うと、とても貴重な時間でした。

お話をうかがい、特に兄弟姉妹のいるお子さんにとっての通級の時間は、45分間、おうちの方や先生を独り占めすることができる、とても素敵な時間なのではないかと思いました。インタビューへのご協力、ありがとうございました。

# 子供のよさを伸ばす視点

## 「ないものを数えるな、あるものを最大限に生かせ！」

これは、「パラリンピックの父」と呼ばれるルートヴィヒ・グットマン博士のことばです。このことばには、子供のよさを伸ばすヒントが詰まっています。

金澤 翔子さんというダウン症の書道家をご存知でしょうか？「ゆず」のCDジャケットの題字や、NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を書いたことで、有名になりました。

小さい頃から字が上手だった翔子さんは、書道家である母に師事し、5歳から書道を始めました。小学校時代、書が上達するたびに父からほめられたことは、今でも強く覚えているそうです。

ゆず『翔』ジャケット題字（2011年）

大河ドラマ『平清盛』題字（2012年）

そんな父も、翔子さんが14歳のときに亡くなりました。

生前よく「翔子は書がうまいから、20歳になったら個展を開いて、ダウン症のことも世間に知らせよう。」と言われていたことを思い出し、個展を開いたことがきっかけで、翔子さんの書が広く世間に知れ渡るようになりました。

翔子さんの母は、これまでの子育てをふり返り「翔子は知的障害があるため、学歴社会に入らなかった。そのことで他人と比べることがなくなった。ひとたび比べると、もう1年生なのにまだこんなこともできないと考えてしまいますが、私と翔子の間にはそんなことがなかった。そのことが今の翔子の姿につながっている。」と語っています。

「ないもの」を補うことだけに力を注ぐのではなく、「あるものを」を最大限に生かすという視点をもつことも、子供のよさを伸ばすことにつながると考えます。